

活用効果評価結果

平成23年度

四国地方整備局 新技術活用評価委員会

開発目標		省人化、省力化、安全性の向上															
新技術登録番号		CB-050060-V					区分			製品							
分類		共通工－排水構造物工－その他															
新技術名		斜角門形カルバート															
比較する従来技術(従来工法)		現場打ち門形カルバート															
新技術の概要及び特徴		道路と道路、道路と水路の交差角が直角以外で斜角に交差する場合など、対応の自由度を高め、現場毎に自由な角度で対応できる技術である。															
活用効果評価	所見	<p>施工は二次製品の据え付けとなるため、仮設工が省略でき、養生期間も不要となるなど、施工性、工程面で優れ、品質・出来形についても工場製作のため、一定の品質確保が可能である。また、現場作業の減少に伴い、省資源化や機器使用に係る排気ガスが抑制できるため、環境面でも効果が高い。</p> <p>設計比較対象技術となる。</p>															
	留意事項	<p>大型クレーンが設置できる施工ヤードが確保できること。</p> <p>支持地盤が軟弱地盤の場合は、必要地盤反力となるよう、補助対策工が必要。</p>															
活用効果調査結果	対象工事	1	道路建設工事								(従来技術) 現場打ち門形カルバート						
		2	交差点改良工事								(従来技術) 現場打ち門形カルバート						
		3	交差点改良その他工事								(従来技術) 現場打ち門形カルバート						
		4	道路工事								(従来技術) 現場打ち門形カルバート						
		5	交差点改良工事								(従来技術) 現場打ち門形カルバート						
		6															
		7															
		8															
		9															
		10															
活用効果調査結果	項目	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	項目の平均	従来技術(従来工法)			
		施工時評価	経済性	C	D	C	C	C						C	C		
			工程	A	A	B	A	A						A	C		
			品質・出来形	B	A	A	C	B						B	C		
			安全性	B	B	C	B	C						C	C		
			施工性	B	A	A	B	B						B	C		
			環境	B	B	B	B	B						B	C		
		その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
施工時評価点	B	B	B	B	B							B	-				
追跡調査													-				
総合評価点	B	B	B	B	B							B	-				
活用効果評価	項目	評価結果											補足				
													内容	判定区分			
		成立性	技術として成立している										技術における機能、品質、性能などを実験や理論的なもの等での確認・証明の有無		技術として成立している	技術として成立していない	
			従来技術より優れる										従来技術に対して優れている度合い		A 従来技術より極めて優れる	B 従来技術より優れる	C 従来技術と同等
		安定性	高い安定性を有す										各評価項目の判定結果による総合評価		高い安定性を有す	安定性に問題がない	安定性が確認されない
			広い										技術の優位性が高いものの件数の多寡		広い	特に広いとまではいえない	-
		区分	従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。												-	-	
		追跡調査の必要性													-	-	
追跡調査																	

